

事例演習（グループ演習方式）実施における

2S-2

問題点と改善方法

(株) 富士通総研 M&Mコンサルティング事業部 長浜 正道

1. はじめに

一般に、高度な実務能力を養成する場合、「事例演習」「グループ演習」などと称される形態の教育・訓練等が行われる。情報教育の分野でも「上級SEの実践能力育成」「プロジェクト管理能力育成」「問題解決能力育成」など多くの分野で実施されており、新しいものでは「ITコーディネーター」認定研修にも全面的に取り入れられている。このように十分普及しているこの種の演習であるが、実際の場面では必ずしも本来の目的が十分に達成されておらず、多くの場合、実施者も受講者も単に「演習を行ったという事実」に自己満足している傾向がある」と筆者は認識している。以下この問題について筆者の考えを述べ、改善に関する提言を行う。

2. 事例演習（グループ演習方式）の概要

グループ単位で実施される事例演習は、多くの場合図1のような形で行われている。

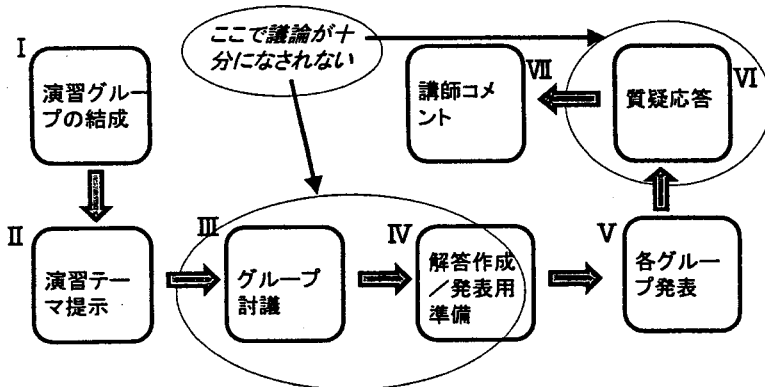


図1 事例演習の流れ

3. 一般的方法（現状）における問題点

現在一般的に行われている事例演習（グループ演習方式）において、今回筆者が問題とするのは次の2点である。このような問題は、いずれも事例および設問のレベルが高度で、グループメンバーのレベルが高い場合に特に発生しやすい傾向がある。

(1) 図1に示すⅢ、Ⅳのフェーズでは、グループメンバー間で発表用の「設問に対する解答」を作成するための議論が行われる。例えば、「事例企業では、次期システム開発に当たって、ERPパッケージ導入、一般ソフトウェアパッケージ導入、自社開発とソフトウェアパッケージの併用、などのうちどの方法を取るべきか」などに関する議論である。この種の議論では、一般に事例が実際の企業に近い場合ほど、またグル

Problems in group-case-study-training and a solution to improve them

Masamichi nagahama

Fujitsu Research Institute (FRI) M&M consulting div.

ープメンバーのレベルが高い場合ほど、論点が複雑で高度なものになり、容易には論議が収束しない。

しかし、検討結果の発表開始時間が決められているため、グループメンバーは「与えられた時間内に、いかに発表時に評価されるまとまりのあるアウトプットを作成するか」という形式的な作業に専念することになり、本来追求すべき本質的な問題について議論するのを避けようとする傾向がある。これではグループ演習の効果は半減する。

(2) 図1に示すⅦのフェーズでも、今度は発表グループと他グループとの間で同様な問題が発生する。この場合議論になる事項は、クラスの全メンバーが参加することになるため、前項以上に重要であるということもできる。しかし、実際には多くの場合、各メンバーはひんしゆくをかうことを恐れてか「質問はするが議論は避ける」というスタンスで対応し、講師は時間的制約などから「形式的なコメントだけで適当に締めくくって終わりとする」という対応をとることになる。これではやはりグループ演習の効果は半減する。

(1)、(2) いずれの場合も、各メンバーは「自分の考えたことがどう評価されるのか」を確認することなく研修を終えることになる。

4. 改善の方法

前項で指摘したような問題は、演習テーマとその内容をこなすのに必要かつ十分な時間を確保できれば解決すると思われるが、現実の問題としてそれは困難であろう。なぜなら、必要とされる時間が大きくなりすぎるからである。しかし、考え方や意見の違いがあった場合に納得するまで議論することは重要である。

そこで、筆者はこの種の事例演習（グループ演習方式）の主なねらいを次の2つに分け、それぞれにあわせて演習のコンテンツと時間割を作成することを提案したい。すなわち、

- a. 戦略策定から運用サービス／デリバリーまで「一連のプロセス全体の流れ」について演習するもの
- b. 特定のプロセスにおける課題や問題点への対応について演習するもの

「a」については、演習過程で難しい議論が発生しないようなコンテンツとし、全工程を対象とする。

「b」については、演習過程で難しい議論が発生することを想定したコンテンツとし、対象工程は演習時間に応じて設定する。議論する時間を十分確保し、発表時には結果だけではなくその過程の論議内容も発表する。講師も形式的なコメントではなく、グループ毎に適切かつ実践的なコメントをする。

このようにすることにより、従来潜在的な不満を内包していた事例演習（グループ演習方式）の評価は向上するものと思われる。

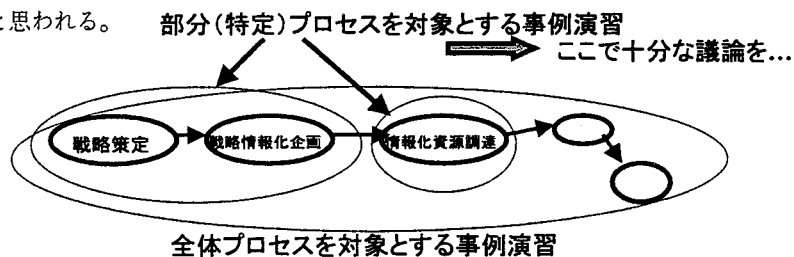


図2 事例演習の2類型

5. まとめ

事例演習（グループ演習方式）においては、演習結果を解答例と単純に比較するのではなく、演習の過程を重視して、疑問点や問題点については納得のいくまで議論することが非常に重要である。